

入札等監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札等監視委員会の令和元年度第2回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

記

開催日時 令和元年8月29日（木） 14：00～15：20

会 場 北九州市庁舎3階 特別会議室B

令和元年度第2回 北九州市入札等監視委員会 議事概要

1 会議名

令和元年度第2回北九州市入札等監視委員会

2 開催日時・会場

開催日時 令和元年8月29日(木) 14:00～15:20

会場 北九州市庁舎3階 特別会議室B

3 出席委員(五十音順)

今泉 恵子、田籠 亮博、中尾 美佐、松田 亨、森江 由美子

4 議事

(1) 令和元年度第1四半期の工事契約状況等の報告

ア 次の事項について報告した。

- ・工事契約件数及び契約金額について
- ・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

(2) 令和元年度第1四半期の工事契約抽出案件の審議

ア 抽出方法について

審議する案件は、令和元年度第1四半期に契約をした工事の中から、中尾委員が10件(契約課契約分8件、西部整備事務所契約分2件)を抽出した。

イ 審議における質疑等

(問) 総合評価、一般競争入札による港湾工事で、評価点は一番高かったが、入札価格は9者のうち一番高かった業者が落札しているため、評価点の内容や配点がどのように影響したかを知りたい。

(答) 今回落札したA社と1点差で落札に至らなかったB社とC社に絞って評価点の内容を見てみると、B社は安全優秀表彰を過去5年以内に受けていなかったため、A社、C社より技術力の評価点で1点低かった。また、C社は前年度新規若年者雇用が1名であったため、2名以上雇用したA社、B社より建設業の人材の確保・育成という点で1点低かった。よって、総合的にA社の点数がB社、C社と比べると1点高くなり、A社が落札することになった。

(問) 総合評価、一般競争入札による建築工事だが、1者入札で落札率が100%となっているため詳しい入札状況を知りたい。

(答) 当該案件では当初7者の応募があったが、3者が辞退、3者がこれより前の案件を落札したために入札資格が取消となった。結果、残ったのは1者のみであり、予定価格と同額での応札であったため、落札率が100%となった。市営住宅耐震改修工事は、住民が生活している中での工事になるため騒音などの問題があり、業者からは敬遠されがちな工事であること

が要因と考える。

(問) 総合評価の項目に「市の施策への協力」というのがあるが、内容はどのようなものか。

(答) 障害者の雇用状況、子育て支援、男女共同参画・女性活躍推進の取り組み、環境負荷軽減などの点で評価を行っている。

(問) 一般競争入札によるとび土工工事だが、参加者が2者しかおらず、落札率が97.99%と高いため、詳しい入札状況を知りたい。また、この2者以外にも特殊基礎工事が可能な登録業者がいたかも知りたい。

(答) 特殊基礎工事とは、基礎を作るとき地中深くまで杭を打つ工事であり、施工可能な業者は限られている。今回参加した2者の他には、他の特殊基礎工事を落札した業者がいるが今回は応札しなかった。よって、競争性が働きにくくなっており、今回も落札率が高くなったと考える。

(問) 一般競争入札による建築工事で、交番は警察の管轄と思われるが市が工事を行う理由を知りたい。

(答) 過去の豪雨により且過市場が浸水したことを受け、神嶽川の改修工事を行い、且過地区の再整備事業に着手している。その一環として、えびす橋の架け替えを行う予定だが、工事の資材などを置く作業ヤードが必要になるため、且過交番を仮移設する。市の事業に基づき必要とされる工事のため、本市が発注するものである。

(問) 指名競争入札による災害復旧の土木工事で、「その1」と「その2」に分けた理由と災害復旧工事の割には「その2」では工事の落札率が低くなっているため、その理由を知りたい。

(答) 「その1」と「その2」では、災害があった場所が離れているため工事を分けている。「その1」では97者指名して応札は7者、「その2」では84者を指名して応札は2者と辞退者が多く、やはり敬遠されがちな工事であるといえる。しかし、その中でも受注意欲を持ち応札した業者もあったため、「その2」は落札率が低くなった。「その1」においても受注意欲のある業者が最低制限価格近くで応札していたが、わずかの差で最低制限価格を下回り次順位の業者が落札したため、結果として「その1」は「その2」よりは落札率が高めになっている。

(問) 指名競争入札による舗装工事で、他の舗装工事の落札率が88%程度であるのに対して、落札率が99.74%と高いため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 舗装工事は競争が厳しく、今回の入札でも競争性は働いていたが、ランダム係数が高かったため、多くの業者が最低制限価格を下回った。結果、予定価格に近い価格で応札をした業者が落札することになり、落札率が高くなった。

(問) 指名競争入札による港湾工事で、落札率が99.61%と高いため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 海底に産卵礁を設置する工事で、船舶と潜水できる人が必要であり、地元の漁協との調整も必要であったため、工事の規模が小さい割には業者にとっての荷は重い工事であったと想像する。よって、業者としては工事を受注したとしても予定価格近くの金額でなければ難しいと判断したことから、落札率が高くなったと考えている。

(問) 随意契約による機械器具設置工事で、予定価格が約1.5億円と高額であることから、予定価格の積算が適切であったかを検証したい。

(答) 今回は特殊な機器を使う工事であったため、機器費の積算は市では難しく、業者から見積を出してもらった。予定価格の積算の際には、機器費については業者の見積に対して一定の査定率をかけ、労賃や諸経費についても公共の基準をもとに積算を行っているため、適切であったと考える。

(問) 指名競争入札による土木工事で、落札率が97.78%と高いため、詳しい入札状況を知りたい。また、この環境整備事業では年間どれ位の発注金額を見込んでいるのかも知りたい。

(答) 環境整備事業の入札は、今後一年間の緊急工事の請負比率を決めることになるため、比較的落札率は高くなる傾向がある。さらに、7者指名したうちの3者が辞退したこと、ランダム係数がやや高めであったことから、落札率が高くなったと考えている。年間の発注金額は、過去3年間の実績を基に、5,100万円を見込んでいる。

(問) 随意契約による土木工事で、随意契約となった理由を知りたい。

(答) 今回の工事は、昨年度施工した樋門改修工事の付帯工事であり、この二つの工事は樋門の一体的な構造、機能を有していることから、別々の業者が施工した場合、かし担保責任の範囲が不明確となることが考えられる。また、工期の短縮という点でも、同じ業者で施工することで有利に働くことが考えられるため、特命随意契約とした。

※ 次回の委員会は、令和元年11月28日(木)に開催することとなった。